

50周年記念誌の発行にあたって

日本人会会長 富士原 寛

このたびオーストリア日本人会は、その発足から50周年という節目の年を迎えることとなりました。1958年に在留邦人の方々の交流を図るために「ウィーン日本人会」として誕生して以来、その活動は多くの皆様のご支援に支えられてまいりました。あらためて感謝申し上げます。



この50年、オーストリアとその首都ウィーンは、第二次世界大戦後の東西冷戦の緊張とその終結、その後のEUの東方拡大という激動の最前線にありました。こうした時代の動きを間近で体感しながら当地に暮らす邦人の方々とともに、日本人会の活動も歴史を刻んできました。

そこで、オーストリア日本人会発足50周年のこの機会に、日本人会の半世紀の歩みを振り返りその時代と活動の記憶をとどめるために、小冊子を取りまとめることといたしました。そして、「50周年記念誌編纂プロジェクトチーム」のメンバーの精力的な働きと、何よりも編集チームからの呼びかけに快く応じて貴重な体験談や写真などを寄せてくださった大勢の方々のご協力できあがったのが、この記念誌です。

日本人会発足のきっかけが一人の音楽留学生が志半ばで病に倒れて亡くなるという悲しい出来事であったことを始め、現在の日本人会役員も知らなかった数多くのエピソードが集まりました。皆様に手軽に読んでいただけるようにエッセイ集の体裁をとらせていただいたので、日本人会の活動記録集としては不十分なものかもしれませんが、より生き生きと当時のオーストリア、ウィーンの様子を感じていただけるものにできたのではないかと思います。ご寄稿、あるいはインタビューにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。とりわけ、当地在任中に書き溜めたすてきな絵を多数挿絵として提供してくださった杉本純氏には厚く御礼申し上げます。また、半年あまりにわたり作業を引き受けてくださった編集チームの皆様にも感謝いたします。

この記念誌は、できるだけ多くの皆様に見ていただけるよう、印刷物の形ではなくWeb上で公開することにいたしました。今後も皆様からさらに新たなエピソードなどをお寄せいただけることがあれば、次の5年、10年の節目に向けてこうした記録を充実させていきたいと思っておりますので、ぜひご連絡いただきたいと思います。

オーストリア日本人会は、新たな半世紀への一步を踏み出しました。企業や公的機関の駐在員関係の方、音楽や芸術関係その他個人での仕事をされている方や長くこの地に根を下ろして生活されている方、また多くの留学生の方など、それぞれ立場の異なる邦人の皆様が交流できる場として、また、必要な情報交換ができる場としてお役に立てるよう、これまで以上に親しんでいただける日本人会を目指して活動して参ります。関係各位の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。(2008年12月)